

I 神が私達に旧約聖書を与えられた意味、意義＝偉大で、一点の罪、汚れのない神に近づくのは、本来、不可能な事であり、大変な事である事を自覚させる為。その事が分かったと、新約時代の私達が、主の十字架の恵みにより、偉大で聖い神に、いつでも近づける事は、いかに驚くべき恵みか、実感できる。※証。本来は、罪ある人間は、偉大な聖い神に近づいたら死ぬ事を教える箇所→「あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山(神が降りて来られるシナイ山)に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は必ず殺されなければならない。…民を戒めよ。主を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけないから。主に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。主が彼らに怒りを発しないために」出19：12、21、22。贖罪の日：「第二の幕屋(至聖所：神が住み、臨在される特別な場所)には、大祭司だけが年に一度だけ入ります。そのとき、血(私達の罪を完全に償うキリストの十字架の血を指し示す)を携えずに入るようなことはありません。その血は、自分のために(人間の大祭司にも罪があった。キリストだけが罪のない方)、また、民が知らずに犯した罪のためにささげるものです」ヘブル9：7。これほど神に近づく事が大変な事と実感する時、新約時代の次の御言葉の驚く恵みのありがたさが、ますます分かる→「私たちの大祭司(キリスト)は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座(神の臨在の場)に近づこうではありませんか」ヘブル4：15、16。

II 旧約時代の神の御住まいは、幕屋、神殿だった。「主よ。御住まいのためにあなたがお造りになった場所に。主よ。あなたの御手が堅く建てた聖所に」出エジプト記15：17。旧約時代は、神の民が、罪、汚れのまま、神に近づいて死なないように、神は、幕屋、神殿(ソロモンの時代から)に住まわれ、偉大で聖い神に近づく為には、多くの規定、いけにえ(動物の血＝キリストを指し示す)が必要とされた。新約時代に入り、キリストが私達の罪の刑罰を完全に受けられた十字架の御業が、成就した時、「イエスは…息を引き取られた。すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた」マタイ27：50、51。この奇蹟的な出来事は、幕屋、神殿に神が住まれ、多くの規定、動物のいけにえ、血で神に近づく時代の終わりを意味していた。神が住まれる「幕屋、神殿の時代」が終わった。それでは、神は、その後、イスラエルの神殿ではなく、どこに住む事にされたのだろうか？私達なら、住まいを考える時、当然、きれいな部屋を望む。※証し。

三位一体の神は、そうではなかった。幕屋、荘厳な神殿の次に神がご自身の住まいとして選ばれたのは、

①罪、汚れのある私達の心。

②まだ主の御姿に変えられる途上にあり、罪、欠点のあるキリスト者の集まりである教会である。何という奇蹟、驚くべき恵み！偉大で聖い神が、私達の心に、そしてキリスト者の集まりである教会に住んで下さるとは！私達は、これを当然と思ってはならない。もっと、もっと驚くべきであり、心から感謝し、賛美すべきである！「あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の住まいとなるのです」エペソ2：22。ものすごく偉大で聖い神が、私達の心に、そして教会に住んで下さる理由は、神が、私達を命をかけて愛しておられ、私達と真実と愛の交わりをしたいと願っておられるからである。もったいない恵み！驚くべき愛！※証し。神の語りかけ。

III 三位一体の神が、私達の心と建物ではなく、キリスト者の集まりである教会に住んで下さる恵みを示す御言葉を見てみたい。

①父なる神の内住＝「神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。…私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じてい

ます。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます」Ⅰヨハネ4：13、16。

②御子キリストである神の内住＝「キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです」ガラテヤ2：20。「キリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心の中に住んでくださいますように」エペソ3：17。「見よ。わたしは、(心の)戸の外に立ってたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事(親しい交わり)をし、彼もわたしとともに食事(親しい交わり)をする」黙示録3：20「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」エペソ1：23。それゆえ、教会の礼拝に出ると特別に満たされる。教会の集まりの中に主が住んで(臨在されて)おられるから。「あなたは聖であられ、…賛美を住まいとしておられます」詩篇22：3。主は、心からの賛美を喜ばれ、賛美の中に住み、臨在される。それゆえに、私達が、主を礼拝し賛美する時、主を近くに感じる。

③聖霊なる神の内住＝「あなたがた(教会)は神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか」Ⅰコリント3：16。「不品行を避けなさい。…あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価(罪のないキリストの尊い血、命)を払って(永遠の滅びから救い出され、神のものとして)買い取られた(贖いの意)のです。ですから自分のからだ(人生)をもって、神の栄光(神に素晴らしさ)を現わしなさい」Ⅰコリント6：18-20。

Ⅳ 神が「私達と共に住まれる」事が、いかに素晴らしい恵み、救いの完成であるかが、新天、新地の黙示録の御言葉に出て来ることから分かる。「また私は、新しい天と新しい地を見た。…『見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼ら(主を信じる私達)とともに住み(愛の交わり)、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない』黙示録21：1-4。これは、主の再臨の後の新しい天と地での神の祝福、深い愛の恵みである。と同時に、今も、この地上で、三位一体の神は、私達の心に、そして教会に住んで下さり私達との交わりを喜ばれ、祈り求める私達に、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制、新しい命、困難な中でも主と共に生きる力、主の御心のビジョンを成し遂げる力、何が主の喜ばれる事かを見分ける知恵を与えてくださる。何という恵み！ 祈り：偉大で聖く、愛に満ちた三位一体の神様。あなたが、私達の心、私達の主の教会を、あなたの住まいとして選んで下さり心から感謝します。驚くべき恵みです。

Ⅴ 21節に「主にある聖なる宮となります」とある。神は、私達の聖なる(神の恵みに感謝し、罪から離れ、聖なる神との交わりを喜ぶ聖さ。喜びのない聖さは、上から人をさばく。神と繋がる聖さは、人々の弱さを思いやり、祈り支える)心と教会(キリスト者の集まり、神の家族)に住まれる。神の宮と偶像(「淫らな者、汚れた者、貪る者は偶像礼拝者」5：5)に何の一致があるでしょうか。私たちは生ける神の宮なのです。…「わたしは彼らの間に住み、また歩む。…汚れたものに触れてはいけない。そうすればわたしは、あなたがたを受け入れ、わたしはあなたがたの父(霊的な聖く愛深い親)となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる。…主は言われる」Ⅱコリ6：16-18。『主の御名を呼ぶ者はみな、不義(不品行、罪、悪)を離れよ。…自分自身をきよめる(不義から離れ、神に近づき聖なる神との交わりを喜び楽しむ)なら、その人は尊いことに用いられます。…情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義(神との正しい関係)と信仰(神への信頼)と愛(まず神に愛され、神からの愛で神と人を愛する)と平和(神との和解の平和・自己受容の平和・人との和解の平和)を追い求めなさい。…主のしもべが争ってははいけません。むしろ、すべての人に優しく、良く教え、良く忍耐し、反対する人たちを柔和(内住の御霊が与えて下さる柔和、謙遜)に教え導きなさい』Ⅱテモ2：19-25